ごあいさつ

皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに平成25年度中間期（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の営業の概要と決算の状況につきまして、ご報告申し上げます。

当中間会計期間におけるわが国の経済は、政府のデフレ脱却に向けた経済・財政・金融政策による円安と株高の進行に伴う企業収益の改善と、個人消費や公共投資の増加などを背景として、緩やかな回復基調にありました。

このような経済状況のもと当行は、平成24年4月から平成27年3月までの3年間を計画期間とする経営強化計画「プランフェニックスⅢ」に基づき、地域から頼られる銀行を目指し「靴底を減らしてお客様を回る銀行」、「雨でも傘をさし続ける銀行」、「謙虚さのDNAを忘れない銀行」をモットーに、お客様の本業支援に全役職員が全力で取り組んでまいりました。

お客様の本業支援では、販路拡大や商品の紹介等のビジネスマッチングを全店で展開するとともに、群馬大学や前橋工科大学との共同開発研究や関東経済産業局・中小基盤整備機構などと連携したものづくり補助金や創業補助金など各種補助金の申請アシスト、関東経済産業局や北関東産官学を介した大手企業との技術連携紹介、大手食品系バイヤーとの商談などの提案活動に取り組んでまいりました。この他、医療関連チームによる成長分野支援活動、次世代経営塾や公認会計士・税理士等の外部専門家との連携による事業承継・相続等相談支援活動、知的財産等支援活動につきましても着実に実績が出てきております。

また、海外進出支援活動については、当行は海外に支店も出張所もありませんが、海外の金融機関やアジアマーケットで活躍をしているコンサルタント会社と業務提携を行うなど、お客様の海外進出に対する支援体制を強化し、海外進出に係る情報提供や政府系機関が提供する各種補助金申請アシスト等に積極的に取り組んでまいりました。

このような、お客様支援活動を積極的に展開した結果、平成25年度中間期の預金残高は、前年同期比493億円増加し、1兆7,712億円となり、貸出金残高についても、同291億円増加し、1兆2,888億円となりました。特に事業性貸出先数は、毎期順調に増加しており、平成25年度中間期の6ヶ月間では391先の大幅な増加となり、平成21年10月からの前経営強化計画の取組み以降の4年間では2,080先の増加が図れております。

また、平成25年度中間期の収益状況につきましては、中小企業向け貸出を中心とした貸出金残高が増加したこと等により、資金利益が順調に推移したことから、コア業務純益55億円、経常利益63億円と中間期の決算としては過去最高益を計上し、中間純利益でも、ほぼ前年並の38億円を計上することができました。

このような預貸金残高や事業性貸出先数の増加、収益力の向上は、当行役職員が一丸となって取り組んできた靴底を減らしたお客様回りの徹底とお客様の本業支援の活動を評価していただいたものと考えております。

群馬県と埼玉県の2つの無尽会社を起源としている当行は、これからも「謙虚さのDNA」を肝に銘じ、今まで以上にお客様回りを徹底し、適切な情報提供や円滑な資金供給に努め、お客様の本業支援活動を継続することで、地域社会の発展、活性化に貢献してまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年1月

株式会社東和銀行
代表取締役頭取

吉永國光